

IV 海外学生派遣  
(年次報告(平成26年度後期・27年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子, 松田, 紀子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00009661">https://doi.org/10.14945/00009661</a>

## IV 海外学生派遣

熊井 浩子／松田 紀子ほか

国際交流センターでは、在校生の海外留学を推進するため、『静岡大学からの海外留学』（海外留学に関するガイドブック）を作成・配布するとともに、25年度から4月の新入生ガイダンスの際にセンターニュース及び「静大からの海外留学」（海外留学パンフレット）を配布している。併せて、過去の留学プログラムやイベント等の参加者のメーリングリストやHP・電子掲示板等での募集情報やイベントの紹介等も行っている。この新入生への広報が功を奏し、海外留学フェア、TOEFL勉強会等や、夏季短期留学などに1年生の参加が増加している。

派遣に関する主なイベントとしては、海外留学フェア（留学説明会）、夏季短期留学説明会やTOEFL説明会・勉強会などを開催し、留学についての情報提供や語学学習のサポートを行っている。さらに、国際交流課（静岡キャンパス・共通教育A棟4階）及び国際交流センター資料室（浜松キャンパス・合同棟1号館3階）に、各国別の最新の資料を提供する棚を設置し、派遣留学やTOEFLに関する情報提供を行うほか、27年度前期は帰国報告会を2回開催し、留学希望者への情報提供に加え、留学経験者自身が留学を振り返り、その成果と新たな目標を確認する機会となっている。

交換留学に関しては留学前指導にアカデミックイングリッシュ（全2回）を実施したほか、TOEFL団体受験の回数を増やすなど、英語力の面でのサポートも強化した。また、派遣予定先の協定校関係者が来訪した際は、留学予定者との懇談会を開催し、ネットワークづくりのサポートや情報提供を行った。

25年度後期に初めて実施した春季短期留学（イギリス・中国）は2回目を迎え、このうちイギリスに関しては、26年度より、本学の単位を認定できるよう、カリキュラムを整備した。

26年度に静岡大学が日本エマージェンシーアシスタンス株式会社によるOSSMAの会員となり、26年度後期以降国際交流センターの留学プログラムで留学する場合は、この個人会員となることを義務づけている。併せて、26年度には、日本エマージェンシーアシスタンスの協力を得て、本学危機管理マニュアルの整備を行い、いっそうの危機管理体制の整備を進めている。

主な派遣プログラム及び活動は以下の通りである。

### 1. 大学間協定に基づく交換留学

平成27年度には以下の10大学20名の学生が大学間協定に基づく交換留学生として選考され、27年度3月及び8月～10月に留学を開始している。括弧内は、当該学生の所属学部を表す。なお、派遣学生中、募集条件を満たした14名の学生が、JASSOの海外留学支援制度（協定派遣）の助成（月額平均7万円）を受けることができた。

27年度交換留学派遣者数はほぼ例年通りであるが、インドネシアのガジャマダ大学に初

めて1名を派遣したほか、ブルガリア・ソフィア大学、ラトビア・リガ工科大学各2名、3年ぶりに韓国の協定校へ1名の学生を派遣するなど、その留学先は多様化傾向にあると言える。ただし、TOEFL基準点の高さもあって、カナダ・アルバータ大学への応募者がゼロであった点が課題である。

アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校 3名（人文社会科学部2名、教育学部1名）  
フランス・ロレーヌ大学 1名（人文社会科学部1名）  
スロバキア・コメニウス大学 4名（人文社会科学部3名、教育学部1名）  
ブルガリア・ソフィア大学 2名（人文社会科学部・教育学部各1名）  
ドイツ・イェナ応用科学大学 2名（工学研究科2名）  
    ブラウンシュバイク工科大学 1名（工学部1名）  
    ヴッパータール大学 3名（人文社会科学部2名、工学部1名）  
    ラトビア：リガ工科大学 2名（人文社会科学部、工学研究科各1名）  
インドネシア・ガジャマダ大学 1名（人文社会科学部1名）  
韓国・慶北大学校 1名（理学部1名）

交換留学に関しては、選考後には派遣前に全3回の留学前ガイダンスを実施し、留学前の準備や危機管理等に関する講義、留学経験者や協定校からの留学生も招いたディスカッション等を行うことにより、学生自身が主体的に準備に取り組めるような機会を提供しているほか、OSSMAによる危機管理ガイダンスも実施した。

また、平成26年度からは報告書に加え、留学前から留学後のキャリア形成も視野に入れた留学ポートフォリオ作成を義務づけるなど、留学を次のステップに結びつけるための指導を行っている。

## 2. ILUNO (Intensive Language Program at the University of Nebraska at Omaha: ネブラスカ大学オマハ校集中語学プログラム)

平成27年度アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校における集中語学プログラムにILUNOに13名（人文社会科学部6名、教育学部5名、工学部2名）が参加した。そのうち、8名は協定に基づく96週分の授業料免除枠での参加である。なお、2月23日に渡航前ガイダンスを実施した。

また、平成27年度募集に先立ち、7月16日にはILUNO説明会を実施し、情報提供に努めた。

## 3. 平成26年度春季短期留学

平成25年度より、春休みにイギリス・中国での短期留学を開始した。実施2年目にあたる平成26年度のプログラム概要は以下のとおりである。

## ① イギリス、サセックス大学短期語学研修

### A) 実施概要

期 間：平成27年2月21日(土)～3月23日(月) (31日間)

研修機関：イギリス サセックス大学 (University of Sussex Language centre, UK)

費 用：487,519円

参加者数：7名 (静岡6、浜松1)

渡航前ガイダンス (3回)：12月4日、1月15日、2月13日

英語コース：

履修期間は4週間、サセックス大学のIntensive Englishコースを履修。全授業時間は60時間 (1.5時間×10クラス×4週間)。コース開始時にプレースメントテスト (筆記、口頭) を受け、レベル別にクラスに配置される。

### B) 平成26年度プログラムにおける前年度からの変更点

- 単位認定制度の導入：単位認定の申し合わせを平成27年3月1日から実施。  
『サセックス大学の春季短期英語研修を受講し、修了書を授与された学生の申請に基づき、「英語海外研修A」、「英語海外研修B」のうちの未修得1科目2単位として認め、評価は「認定」とする。』
- サセックス大学がホームステイの提供を停止したため、宿泊先が大学寮になった。
- 天候 (雪など) の影響を避けるため、日本からの渡航につき空港近くに前泊を旅程に追加。

### C) 成果と課題

以下、参加者を対象に終了後に実施したアンケートの結果を元に成果と課題をまとめる。満足度を聞いた設問では、「プログラム全体」「英語の授業」「サセックス大学の環境」「課外アクティビティ」の各項目で、全員が「どちらかといえば満足」もしくは、「満足」と答えた。しかし「寮」に関しては、「どちらともいえない」「不満」と答えた参加者が多かった。寮の暖房の不備、休日到着時の対応等の基本的な環境に一部問題があった。次年度以降、寮を利用する場合には、設備の良い寮を選択する、受け入れ担当者に申し入れをしておく等の配慮が必要である。一方で「大学寮に滞在して実際の大学生活を味わえたこと」がとても楽しかったと回答する学生もあり、正規学生との交流等の観点で、寮滞在には意義がある。参加者にはホームステイの希望者が多かったため、次年度は、ホームステイの手配の可能性についても調べる予定である。

参加者が感じた成果については、「英語で会話をするに対する不安が減った」、「英語を勉強するモチベーションがあがった」、「海外の人たちとの交流に前向きになった」と答えた参加者が特に多かった。

課外活動については、昨年度と同様に自由度の高い、各自が申し込む形式とした。学生の課外活動先は、ロンドン、オックスフォード、バース等、イギリス国内の都市、週末を利用してイギリス国外への旅行等であった。課外活動のツアーを通して、学外の友人ができたことを充実した思い出としてあげる学生もいた。また、課外活動も含む成果として、「初めての海外での生活で最初は緊張したが、交通機関に慣れて、自分で行きたいところへ行けるようになったことは大きな自信につながった。これまで自分が学んできた文化を本

場で体験することができ、専門分野に対する興味関心をより強く持つようになった。」と述べた学生もいた。アンケートの「有料でも全員が参加する課外活動が組み込まれているといいか」という設問では、全学生が「どちらでも良いか」、「あてはまらない」と答えているため、次年度のプログラムでも自由型とするのが良いと考えられる。

## ② 中国 北京華文学院短期語学留学

### A) 実施概要

期 間：平成27年2月26日(木)～3月18日(水)

研修機関：北京華文学院

費 用：19万7330円

参加者数：6名（人文社会科学部5名、教育学部1）

渡航前ガイダンス（3回）：12月4日、1月15日、2月5日

コース内容：開校式

午前：中国語研修（1.5時間×12日）

午後：文化体験（書道、絵画、切り絵、手工芸、餃子作りなど）

夜：武術、バドミントン、卓球など

木曜日、金曜日：観光（全日）（万里の長城、天安門広場、頤和園、オリンピックセンターなど）

試験、閉校式

### B) 成果と課題

参加者を対象に終了後に実施したアンケートの結果を元に、以下に成果と課題をまとめる。

- ① 華文学院の先生方が非常に熱心に教えてくださり、学生たちはそれぞれの中国語の弱いところを徹底的に直してもらい、中国語学習の成果を上げることができた。
- ② 実際に中国の旧跡を自分の足で確かめることによって、中国古来の皇帝の偉大さや歴史の長さを感じとることができた。
- ③ 渡航当時、北京の大気汚染が心配されたが、実際に行ってみると、意外と天気は良く、マスクが必要な日は数日だけだったという事実から、学生たちは日本で大きく報道されていることと現地での生の生活とは異なっていることを実感したようだった。
- ④ 華文学院は華僑のための語学学校という性質上、参加学生と同じ年代の中国人大学生と触れ合うことがなかった。ただし、タイ、オランダ、ブラジル、フランスからの学生たちと中国語や英語で交流することによって、視野を広げることができた。

北京華文学院はホスピタリティーが非常に良く、学生の満足度も高いため、今後行き先を変えることは考えにくいですが、他大学の中国人学生との交流機会をプログラムに組み込んでもらうよう要求していく予定である。

## 4. 夏季短期留学

8月の1-2週目から3週間、アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校（参加者11名）、カナ

ダ・アルバータ大学（参加者29名）、韓国・朝鮮大学校（参加者5名）の3つの夏季短期留学が実施された。参加者を対象に5月28日、6月18日及び7月9日に3回の説明会を実施した。説明会では、スケジュールや手続き・準備等の説明及び留学経験者からのアドバイスや海外安全のための知識等についての紹介を行ったほか、アルバータ大学については、6月10日にアルバータ大学関係者が来訪して説明会を実施した。また、7月23日には静岡キャンパスで結団式が行われた。

夏季短期留学参加者は語学研修や文化体験、ホームステイ、旅行など盛りだくさんのプログラムを満喫して無事帰国した。

なお、ネブラスカ大学及びアルバータ大学の夏季短期留学については、全学教育科目の英語科目「英語海外研修A」「英語海外研修B」として単位化され、24年度以降入学者はこの科目を取得することができた。また23年度以前の入学者および韓国サマースクール参加者については、従来どおり各自の申請にもとづき、全学教育科目の英語科目・韓国語科目（2単位）を認定した。

英語科以外演習については、現地での英語の成績に留学前の目標やその成果及び新たな目標等を含む報告書によって成績を決定した。その報告書の一部はセンターホームページに公開されている。

夏季短参加者には帰国後、留学生支援ボランティアや留学プログラム、ABP副専攻などの情報提供を行った結果、それぞれに複数の参加者が参加しており、留学の成果を活かして次のステップに向けて動き出していることがうかがわれる。

## 5. 協定校の短期研修プログラム

下記の協定校短期プログラムに本学学生が参加し、他の国・大学からの学生らとともに充実した研修を行うことができた。

- ① 韓国・慶北大学校“Global Summer School”：平成27年8月10日～8月22日：教育学部1名

## 6. 海外留学フェア

平成26年度後期は10月16日(木)に静岡キャンパス、10月23日(木)に浜松キャンパスで、27年度前期は4月16日(木)に静岡キャンパス、4月23日(木)に浜松キャンパスで実施した。前後期ともに第1部では全体的な説明及び留学経験者によるパネルディスカッションを行い、第2部ではプログラム・協定校ごとにブースを開設し、留学生を交えて個別相談を行った。参加者は25年度後期静岡キャンパス69名、浜松キャンパスは30名、26年度前期は、静岡キャンパス60名、浜松キャンパスでは52名と、浜松キャンパスの出席者が増加傾向にある。

## 7. TOEFL 説明会及びTOEFL 勉強会・TOEFL ITP（団体受験）

海外派遣推進を目的として、TOEFLの試験情報の提供及び学内受験体制の整備に努めている。平成27年度も前年度と同様に、年度当初に、ITP（TOEFL団体受験）の年間実施日程（年間4回）を定め、学内に周知をすることで、学生が留学予定に合わせて計画的にITP受験をすることができるようにした。広報については、国際交流センターのイベント、HP

等の媒体で告知するとともに、大学教育センター英語教員の協力で、英語科目の履修生に向けてもチラシによる周知に努めた。また、TOEFL日本事務局の国際教育交換協議会（CIEE）の担当者を招いたTOEFL説明会、大学教育センター英語教員によるTOEFL勉強会を各1回、行った。

- ITP TOEFL 学内実施

第1回：2015年5月28日(木)、第2回：2015年7月23日(木)

第3回：2015年11月5日(木)、第4回：2016年1月21日(木)

- TOEFL 対策説明会

2014年5月14日(木) 14：30～16：00

- TOEFL 勉強会

静岡：2015年6月4日(木) 13：30～15：00

浜松：2015年6月12日(金) 14：25～15：55

## 7. VSCP（Visiting Students Certificate Program）説明会実施

カナダ・アルバータ大学で行われている語学研修と専門科目の単位取得を組み合わせたプログラムであるVSCPの説明会がアルバータ大学Gretchen Phillips氏を迎えて平成26年11月13日(水)に開催された。

27年度前期派遣留学生は8名（27年5月開始3名、9月開始3名、28年1月開始2名）である。

## 8. KAKEHASHI プロジェクト

政府（外務省）が推進する北米地域との青少年交流の一環として、国際交流基金が実施する派遣プログラムに国際交流センターが応募し、採用された。この事業は日米の相互理解の深化、将来の日米交流の担い手層のネットワーク形成並びに青少年層におけるグローバル人材の育成を目的とする。また、この青少年交流事業を通し、日本に対する潜在的な関心を増進させ、訪日外国人の増加を図るとともに、日本的な価値やクールジャパンといった我が国の強みや魅力等の日本ブランドへの国際理解を増進させることも目的である。

静岡大学からは、学内の公募によって選ばれた23名の学生が、平成27年3月2日から14日までの13日間、ロサンゼルス、カンザス、ポートランド、サンフランシスコを訪れた。派遣にあたっては、5回の事前研修を行い、英語によるプレゼンテーションを特訓した。派遣期間中は現地の学生や市民に対して、日本や静岡の魅力を英語で発信し、草の根の交流を深めた。

## 9. 刊行物

- ・「静岡大学からの海外留学」(留学ガイドブック)
- ・「静大からの海外留学」(留学パンフレット)
- ・夏季短期留学ガイドブック